

でもね、いじつから始めよう



成田富里いずみ清掃工場に大量のごみが集まる

成田富里いずみ清掃工場には、計画処理量を超えた可燃ごみが持ち込まれています。ごみの削減は、私たちがすぐに取り組むべき大きな課題です。一人一人ができることから始めましょう。

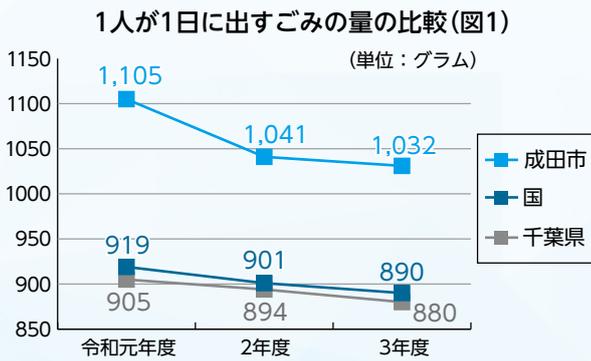
成田市のごみの現状

増える処理量と財政負担

成田富里いずみ清掃工場では、本市と富里市から排出される可燃ごみを高温で溶かして処理しています。建設時は年間のごみ処理量を5万4,000トンと想定していましたが、近年の搬入量は5万5,000トンを超えています。処理限度を超えたごみの処理は、外部の施設に依頼していて、その費用は、令和元年度から3年度までの3カ年平均で約1億4,000万円に上り、財政的にも大きな負担が発生しています。

全国平均よりも多いごみ排出量

令和3年度に市内の家庭や職場から出たごみ（一般廃棄物）は4万9,221トンで、市民1人1日



当たりに換算すると1,032グラムとなり(図1)。令和2年度と比較すると減少していますが、全国平均と比べると142グラム多く、県内平均より

152グラム多くなっていることが分かります。

可燃ごみの中にも多くの資源物が

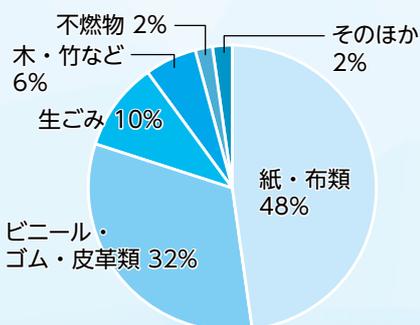
令和4年度に成田富里いずみ清掃工場に持ち込まれた可燃ごみの内訳は図2の通りです。

本来は資源物である紙・布類が全体の半分近くを占め、多くの資源物がリサイクルされずに処理されていることが分かります。

また、3割近くを占めるビニール・ゴム・皮革類の中にもリサイクルできるプラスチック製容器包装が含まれています。そして、その処理にも多くの費用がかかっています。

このような現状を変えるためには、一人一人がごみを正しく分別し、排出される可燃ごみの量をさらに少なくする生活を心掛けることが大切です。

令和4年度の可燃ごみの内訳(図2)



一人一人ができること

雑がみも大切な資源

雑がみとは、家庭から排出される古紙のうち、新聞・チラシ・雑誌・段ボール・飲料用パックのいずれの区分にも入らない物のことをいいます。お菓子の箱や包装紙、封筒、はがきなどがその一例です。細かい物が多く、可燃ごみとして捨ててしまいがちですが、分別すればリサイクルすることができず、捨てずに資源物として分別しましょう。集積所に出す時は紙

袋に入れてから、紙袋ごとひもで十文字に縛ってください。

市では、各家庭で雑がみの分別をしやすいするため、雑がみ保管袋を作成しました。クリーン推進課(市役所5階)、行政資料室(市役所1階)、下総・大栄支所、各公民館などで配布しています。

プラスチック製容器包装も正しく分別を

市では、プラマークのあるプラスチック製容器包装を、リサイクルできる資源物として週に1回収集しています。白色の指定袋に入

れて、収集日に出してください。

プラマークを確認する

資源物として回収できる物にはプラマークが付いています。ごみとして捨ててしまう前に確認しましょう。

プラスチックのバケツや歯ブラシなど、品物そのものがプラスチック製品である場合は分別の対象になりませんので、可燃ごみとして出してください。

きれいに洗って、汚れやにおいを落とす

汚れや油の付いた物はリサイクルできないので、きれいに洗い流

してください。

汚れや油、においが落ちない場合は、可燃ごみとして出してください。

生ごみは出す前にひと工夫

生ごみや食品ロスを減らすため「使いきり・食べきり・水きり」を行う「3きり運動」を意識しましょう。

買った食材は使い切る、料理は作り過ぎない、生ごみは出す前に水をよく切る、といったひと工夫を行うことでごみを減らすことができます。

ごみ減量器具設置費補助金

市では、生ごみを減量し、堆肥化する器具を購入する世帯に対して、その設置にかかる費用の一部を補助しています。

です。

詳細は市ホームページ(https://www.city.nari

ta.chiba.jp/kura

shi/page115800.

html)を確認して

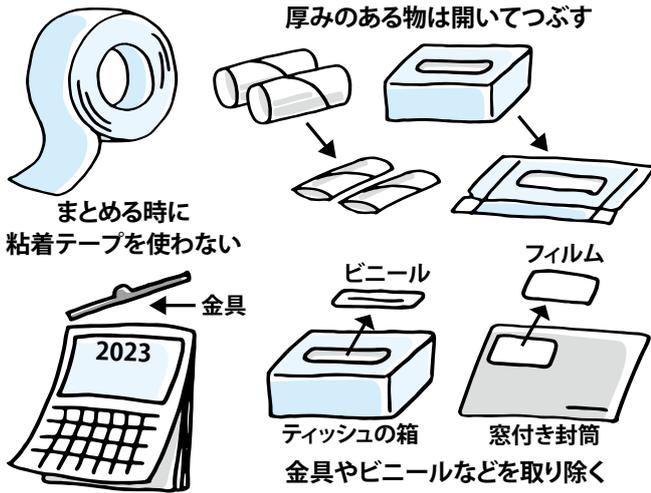
ください。

※くわしくはクリーン推進課(☎

20・1530)へ。



雑がみを出す時の注意点



プラスチック製容器包装の分別例



スマートフォン用アプリ「さんあ〜る」

住んでいる地域の収集日を事前に知らせてくれる通知機能や、どの指定袋で出せばよいか分かる分別帳、収集日カレンダーなどを利用できます。下のQRコードからダウンロードして、ごみや資源物を分別する時に活用してください。



Android端末用



iPhone・iPad用